

# 経営 探訪

秋田化学工業株式会社

今、新たなステージへ  
磨き続けてきた技術と信頼

1972年創業。様々な金属製品のめっき加工・表面処理を専門とする。  
数ミクロンの精密な化学研磨から、国内最大級の浴量を誇る電解研磨まで対応可能。  
2019年、県内初となる防さび電着塗装設備を有する横手工場を竣工し、  
自動車関連産業への本格参入を開始した。

## 金属表面処理のプロ集団

ミリ単位の超小型の部品から10tを超える大型製品まで、大小問わず金属製品の表面処理を手掛けるにかほ市の秋田化学工業株式会社。めっき加工や電解研磨といった様々な金属の表面処理を専門とし、複雑な製品にも対応する高い技術力と品質には定評がある。だが、その背景には自社製品を持たない受注業であるが故の苦難があった。

「今年で創業47年目ですが、仕事の内容は年々変化してきています。創業時は機械加工部品のめっき加工からスタートしましたが、私が入社した1996年頃は、国内半導体メーカーの絶頂期もあり、売上高の8割を一社受注による半導体の半田めっき処理が占めていました。しかし、海外メーカーの参入で国内規模が縮小し、8割の売上もほぼなくなる苦境に立たされました」。

そう語る丹野恭行代表は技術者上がり。事業承継も視野に入れ変革を求めた同社が、才能ある人材を求めて採用した一人が丹野代表だった。



1 “自社ならではの付加価値の高い製品提供”

当時、開発・生産部門の担当であった丹野代表は、一社依存のリスクを危惧し、半導体以外の付加価値の高い製品受注とその設備環境整備に向けて大きく事業転換を図るため、デジタルカメラや薄型テレビに採用されるフラットパネルディスプレイなどの表面処理に受注をシフトしていった。また、液晶テレビの普及と共に大型化する液晶パネル製造装置に対応すべく、2004年には、国内最大規模の電解研磨専用工場を設立した。受注業の宿命と諦めることなく、時代を機敏に捉え、柔軟に対応することで培った多様なノウハウは、秋田化学工業の再建と今日の飛躍の確かな礎となっている。

## そのひと手間が価値になる

2011年7月、奇しくも東日本大震災に見舞われた年に代表取締役役に就任。生産性向上や品質管理といった社内改善を主とした技術者から一転、丹野代表は経営者として社内外を見通す立場となった。

「現場中心の技術者と全体を見る経営者では目線が違います。例えばお客さまから部分めっきといった難しく手間がかかる注文を受けたとき、技術者として“できない”ではなく、お客さまのために“どうすればできるのか”と考えるようになりました」。

お客さまが求めていることに真摯に向き合う姿勢。これにより、難易度が高くとも“断らない”社風が生まれ、技術力は自然と向上していった。他社の追随を許さない技術力は付加価値となり、取引先からもより一層信頼される結果へと繋がっている。

また、「表面処理は、部品そのものの加工と組立の間にあたる工程のため、個々の技術に頼る手作業が多く、正直、要求される納期が厳しいこともある。決して楽な仕事ではない」と語る



丹野代表は、自らの手で意欲的にもものづくりに励む従業員はもちろん、業界全体の発展のためにも目を配る。

そのひとつが学びの場の提供だ。向上心のある従業員のために資格取得を推奨し、普段現場に携わらない営業職や事務職でもその多くがめっき加工に関わる国家資格を有している。さらに東北で唯一、めっき技能検定の試験会場として同社を提供しており、金属の表面加工を学びたい学生や企業に広く門戸を開いている。

前例がないからといって変化を恐れることはない。昨今の少子高齢化で現場が人手不足に悩めば、にかほ地区でいち早く外国人技能実習生の受け入れを開始。“新入社員の育て方は日本人と同じ”と教育した実習生の中には、もう一人前の仕事を任せられるまでに成長した従業員もいるほどだ。

## 自動車関連産業への本格参入へ

伸び代がある航空機産業の認証取得、県外企業のグループ会社化、海外展開など、丹野代表の試みは枚挙にいとまがない。



今年実現した自動車関連産業への本格参入も、長年丹野代表が種を蒔いてきたものが実を結んだものだ。

横手第二工業団地に建設された横手工場は、県内初の防さび電着塗装設備を有しており、既に同工業団地内で自動車部品を製造している大橋鉄工秋田株式会社より受注が決まっている。

完全な「自動化」で対応する様は、にかほ市の本社工場とは対極に見えるが、これも半導体で培った量産体制のノウハウと積み重ねてきた高い表面処理技術の賜物だ。

「横手工場の本格稼働は9月からを予定しています。自動車部品の塗装体制を整えつつ、将来的にはより難易度の高い家電分野にも挑戦してみたいですね」と語る丹野代表の仕事にかける情熱は尽きることはない。

にかほと横手。手作業と自動化。技術者として、経営者として、丹野代表が率いる秋田化学工業は、未来に向かってその技術を一途に磨き続ける。

- 1・2 にかほ市の本社工場。難易度の高い加工を得意とする。
- 3 横手工場。高品質で大量生産可能な最新設備が整う。
- 4 ベトナムからの技能実習生。その眼差しは真剣そのものだ。



**秋田化学工業株式会社**  
〒018-0402  
秋田県にかほ市平沢字井戸尻81  
TEL. 0184-37-3166  
FAX. 0184-36-2291

創業 / 1972年  
●資本金 / 1,200万円 ●従業員数 / 79名  
●営業品目 / めっき加工・表面処理

代表取締役  
**丹野 恭行**  
たんの やすゆき

